

-すべての子どもに読書の機会を-  
読んで楽しい本・元気がでる本



このブックリストは、どのような時にあっても、すべての子どもに本を楽しむ機会をもって欲しいという思いで、保護者や子どもに関わる活動をされている方を対象に作りしました。

ブックリストでは、6つのテーマの本を紹介しています。

テーマ1から4は、声に出して楽しんだり、日常生活と結びついたりする本を選びました。子どもが本と関わるひとときを楽しい時間と感じ、「また読んでほしい」、「じっくりひとりで楽しみたい」という気持ちが生まれることを願っています。

テーマ5と6は、子どもや大人が、夢や希望に向かう姿、厳しい状況に置かれて葛藤したり、成長する姿を描いた本を選びました。子どもの明日に向かう気持ち、自分を大切に思う気持ちにつながり、人生をより深く生きる力をつける助けになることを願っています。

### 【テーマ】

<p>1 言葉遊び 2 食べもの 3 自然・科学 4 空想・ユーモア</p>	<p>子どもが一人で読んだり、大人が子どもの関心や成長に応じて1対1で読んだり、また大人が年齢や本の好みが多様な子どもたちに読んでも一緒に楽しめる本です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「しりとり」や「なぞなぞ」などの遊びの要素のある本</li> <li>● 声に出して楽しい本、日本語の音やリズムを楽しむことができる本</li> <li>● 「食べもの」や「生きもの」など、普段の暮らしや自然体験の中で、実際に触れたものに対する感動や好奇心につながる本</li> <li>● 未知の世界への関心、空想の楽しさが伝わる本</li> </ul> <p>など、子どもの好きなものや遊びなど身近なことを取り上げている本を紹介しています。</p>
<p>5 希望・成長・葛藤 (ノンフィクション) 6 希望・成長・葛藤 (フィクション)</p>	<p>子どもが困難な状況を抱えている、自信を失っていると思われる時などに、子どもの状況に応じて薦めていただけるような</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 励ましを伝えられる本</li> <li>● 困難な境遇にありながら生きる子どもや大人が登場する本</li> <li>● 子どもや大人の成長を描いた本</li> </ul> <p>を紹介しています。 大人が子どもの困難さを理解するためにも読んでいただきたい本です。</p>

◆ このブックリストには、「「図書館資源を活用した困難地域等における読書・学習機会提供事業」ブックリスト編纂委員会」の助言をいただきながら、大阪府立中央図書館司書が選んだ本を収録しています。

◆ 子どもの対象年齢は、概ね3歳から12歳までです。

◆ リストの記載事項は、次の順になっています。

書影／書名（シリーズ名）／著编者・画家・訳者等／出版社／出版年月／価格／府立中央図書館司書による紹介文（テーマ1から4）／府立中央図書館司書によるあらすじ文（テーマ5から6）／本のキーワード（テーマ1から4）／主題（テーマ5から6）

※「希望・成長・葛藤」のテーマは、書名（シリーズ名）／著编者・画家・訳者等／出版社／出版年月／価格／主題 のみのリストも最後に載せています。

◆ 掲載している情報は、2018年9月現在です。

# 1 言葉遊び

	<p><b>これはのみのびこ</b></p> <p>谷川俊太郎／作 和田誠／絵 サンリード 1979年4月 1200円＋税</p>	<p>「これはのみのびこ」で始まり「これはのみのびこの すんでいるねこのごえもん」と文章を重ねていく、つみあげうたの絵本です。文章が1行から2行、3行と増えるにつれ物語も進みます。声に出して読むと、ついつい早口言葉のようになってしまいます。リズムカルな文章と、シンプルなイラストはみんなで読むのも楽しい1冊です。</p>	<p>つみあげうた 早口言葉</p>
	<p><b>しりとりのだいすきな おうさま</b> (チューリップえほんシリーズ)</p> <p>中村翔子／作 はたこうしろう／絵 鈴木出版 2001年6月 1300円＋税</p>	<p>なんでもしりとりとりに並んでいないと気が済まない、しりとり大好きな王様がいました。食事の料理もしりとり順番に出し、最後は王様大好きなプリンと決まっています。そんな王様に困り果てた家来たちが、朝食に用意したのはトマトでした。トマトの次は、また「ト」で終わる料理を出しました。一緒にしりとりを考えながら楽しめます。</p>	<p>しりとり さかさ言葉 食べもの</p>
	<p><b>あるのかな</b> (チューリップえほんシリーズ)</p> <p>織田道代／作 飯野和好／絵 鈴木出版 1999年9月 1300円＋税</p>	<p>「みみずにみみはあるのかな」にはじまり、しゃれで11の「あるのかな」が問いかけられます。あるのか、ないのか考えるのはもちろん、「耳のあるミミズ」など「ある」場合の絵が、見開きいっぱいダイナミックに描かれていてクスッと笑ってしまいます。声に出して読んでも楽しい、ナンセンス絵本です。</p>	<p>しゃれ ユーモア</p>
	<p><b>わにがわになる</b></p> <p>多田ヒロシ／著 こぐま社 1977年2月 1050円＋税</p>	<p>「いるかはいるか」などシンプルなものから、「からすがこえをからす」といった少しひねったものまで、子どもたちが大好きなしゃれが29個、ほのぼのとしたイラストともに描かれています。覚えて使いたくなるしゃれも見つかるでしょう。また、絵だけを見て、しゃれを考える遊びなどにも使えます。</p>	<p>しゃれ ユーモア</p>
	<p><b>あいうえおうさま</b> (理論社版新しい絵本)</p> <p>寺村輝夫／文 和歌山静子／絵 理論社 1979年12月 1000円＋税</p>	<p>「あ」から「ん」まで50音順に1ページずつ、その文字から始まる4行の文と絵で構成されています。例えば「あ」では、「あいうえおうさま、あさの あいさつ、あくびを あんぐり、ああ おはよう」という文に、欠伸をする「おうさま」、雨、アザラシ、朝顔、穴、蟻などが描かれています。声に出しても、絵から言葉を見つけるのも楽しい絵本です。</p>	<p>50音 絵さがし</p>

	<p><b>ひょっこりひとつ</b></p> <p>佐々木マキ／さく 福音館書店 2016年8月 900円＋税</p>	<p>「ひょっこり ひとつ」のキノコを熊が見つつけ、「ふんわり ふたつ」浮かぶ雲をカバが眺めるといのように、数字と韻を踏んだ一文とともに動物や女の子の絵が展開します。1つずつ数が増え、最後にみんなで11のオムレツを食べます。帰り道、見上げる空に星は何個あるかな、と数の認識にもつながる言葉遊び絵本です。</p>	<p>数 動物 散歩</p>
	<p><b>さる・るるる</b></p> <p>五味太郎／作・画 絵本館 1979年11月 700円＋税</p>	<p>「さる」がベッドから起き、木を蹴って果実をたくさん取り、その実を竹馬と交換し、竹馬でダチョウと競争し、こけて怪我してベッドに戻ります。「さる・くる」「さる・みる」「さる・ける」というように、シンプルな音の繰り返しで表現されています。音のリズムに合わせて、お調子者の「さる」の一連の行動が楽しめます。</p>	<p>音のくりかえし サル ユーモア</p>
	<p><b>さかさことばで うんどうかい</b> (こどものとも絵本)</p> <p>西村敏雄／作 福音館書店 2015年6月 900円＋税</p>	<p>動物たちの運動会の競技を、上から読んでも下から読んでも同じ逆さ言葉(回文)で表しています。例えば騎馬戦では、「たつくる くった」「いたいよ いたい」、跳び箱では「だん なんだん なんだ」「よんだんよ」「さんだんさ」「かんたんか」というように。この本をお手本にして、一緒に回文を作ってみるのも楽しいでしょう。</p>	<p>さかさ言葉 動物 運動会</p>
	<p><b>まるまる</b> (幼児絵本シリーズ)</p> <p>中辻悦子／さく 福音館書店 1998年2月 900円＋税</p>	<p>くり抜かれた円い2つの穴が目となり、穴から見える下のページの色と、一筆書きの線との組合せで、様々な表情に見えます。「まるまる、えっへん」「まるまる、こまる」「まるまる、にっこり」などの言葉で、その絵が表されています。カラフルなデザインセンスとシンプルな言葉のリズムが秀逸です。顔にあててお面にしても楽しめます。</p>	<p>しかけ絵本 表情 色・形</p>
	<p><b>うしはどこでも「モ〜！」</b></p> <p>エレン・スラスキー・ワイン スティーン／作 ケネス・アンダーソン／絵 桂かい枝／訳 鈴木出版 2008年12月 1400円＋税</p>	<p>犬は、イギリスでは「バウワウ、バウワウ」、スペインでは「グァウ、グァウ」、フランスでは「ワウ、ワウ」と鳴くというように、日本での鳴き声とは違う、外国での聞こえ方を紹介します。ほかにカエル、アヒルなどが登場しますが、牛はどの国でも「モ〜！」というページが繰り返し挿入されます。落語家の翻訳による大阪弁の語り口も愉快的な絵本です。</p>	<p>鳴き声 外国語 動物</p>



## 2 食べもの

	<p><b>おやおや、おやさい</b> (福音館の幼児絵本)</p> <p>石津ちひろ／文 山村浩二／絵 福音館書店 2010年6月 900円+税</p>	<p>今日はいろいろな野菜が集まるマラソン大会。スタートからゴールまで、元気いっぱいの野菜たちが走る姿、応援する姿が描かれています。野菜たちの絵はリアルながらもコミカルで、それぞれの個性が野菜のイメージにぴったりです。「そらまめ そろって マラソンさ」などの韻を踏んだような文章は、子どもと一緒に声に出して読んでも楽しめます。</p>	<p>野菜 マラソン 言葉遊び</p>
	<p><b>トマトさん</b> (こどものとも絵本)</p> <p>田中清代／さく 福音館書店 2006年7月 900円+税</p>	<p>夏の暑い日、トマトさんが地面にどつたと落ちました。ミニトマトたちは転がって小川へ飛び込んでいきますが、トマトさんは重くてその場から動けず泣いてしまいます。すると虫やトカゲたちが協力して動かしてくれて、トマトさんは小川を泳ぐことができました。表紙から最後のページまで、トマトさんの心の動きがわかる表情が印象的な絵本です。</p>	<p>トマト 夏 友達</p>
	<p><b>ミルクこぼしちゃだめよ!</b></p> <p>スティーヴン・デイヴィーズ ／文 クリストファー・コー ／絵 福本友美子／訳 ほるぷ出版 2013年7月 1500円+税</p>	<p>ペンダは、山の上で仕事をしているお父さんに、1滴のミルクもこぼさないように気をつけて届けますが、マンゴーがお椀に落ちてきて、ミルクは飛び散ってしまいます。悲しむペンダにお父さんは、「お椀の中には、おまえの気持ちがこぼれずにいっぱい入っている」と優しく言います。色彩の豊かなニジェールのお話。</p>	<p>ミルク マンゴー 家族 アフリカ (ニジェール)</p>
	<p><b>おにぎり</b> (幼児絵本シリーズ)</p> <p>平山英三／ぶん 平山和子／え 福音館書店 1992年9月 900円+税</p>	<p>ごはんをたいて、手の平に水をつけて、塩をつけて、あつあつごはんをぎゅっ。まんなか梅干をうめて、ぎゅっ、ぎゅっ。手の中でのくるっ、くるっ、くるっと回して、海苔を巻けば、おいしそうなおにぎりのできあがり。おにぎりができるまでを丁寧に描いてあり、思わず手をのばして食べたくなると同時に、自分でも作ってみたいくなります。</p>	<p>調理 おにぎり</p>
	<p><b>うめぼしさん</b></p> <p>かんざわとしこ／文 ましませつこ／絵 こぐま社 2015年2月 1200円+税</p>	<p>梅の小枝で咲いていた花が散り、実になると、もがれて塩づけにされます。しその葉に染まり、日光でしわが寄り、酒をふりかけられてちょうどいいうめぼしになります。病気や遠足の時、ごはんを食べる時、私たちの生活の中に、いつもうめぼしは身近にあります。うめぼしのできるまでを擬人化し、歌うような文章と楽しい絵で描いています。</p>	<p>うめぼし 食文化</p>

	<p><b>おべんとう</b> (福音館の幼児絵本)</p> <p>小西英子／さく 福音館書店 2012年2月 900円＋税</p>	<p>お弁当箱を用意して、さあ、何から入れましょうか。最初に入れるのは、炊き立てのごはん。ミートボールに卵焼き、ぷりぷりのウィンナーや色とりどりの野菜を詰めてゴマをふると、最後はデザートに真っ赤ないちご。とってもおいしそう！ お弁当ができる嬉しさや楽しさを感じられる絵本です。</p>	調理 弁当
	<p><b>からすのパンやさん</b> (かこさとしおはなしのほん 7)</p> <p>かこさとし／作・絵 偕成社 1973年9月 1000円＋税</p>	<p>いずみがもりのからすのパンやさんに4羽の赤ちゃんがうまれました。両親は大事に育てますが、世話をするのに気を取られ、お客さんは減り、貧乏になります。売れないパンは4羽のおやつになり、からすの子どもの間で評判になります。家族で考えて、変わった形のおいしいパンをどっさり作って売り出すと、お客で店は大騒ぎ。たくさん並んだパンやからすの絵を見るのも楽しい絵本です。</p>	パン カラス 家族
	<p><b>ぐるぐるカレー</b> -ぐるぐるえほん-</p> <p>矢野アケミ／作 アリス館 2012年8月 950円＋税</p>	<p>「まあるいかたち、なにに入れる？」の問いかけで、お鍋にたまねぎ、お肉、にんじんなどカレーの材料を入れて、ぐるぐるぐるまわしてまわして、おいしいカレーを作ります。丸い形に指をあてて、ぐるぐる〜と回して楽しめ、ごっこ遊びにも発展する「ぐるぐるえほん」シリーズの1冊です。</p>	調理 カレー
	<p><b>はらぺこあおむし</b></p> <p>エリック・カール／さく もりひさし／やく 偕成社 1976年5月 1200円＋税</p>	<p>卵からうまれたちっぽけなあおむしが、月曜日にリンゴをひとつ、火曜日にナシを2つとどンドン食べて大きくなり、サナギを経てチョウになります。次々と食べ物の数は増えていくのに、「おなかはぺっこぺこ」の繰り返しが楽しい絵本です。子どもたちの大好きなおやつの登場、青虫が食べた後の穴も感じられるしかけ、鮮やかな色彩も魅力です。</p>	しかけ絵本 成長 青虫（蝶）
	<p><b>ぜったい たべないからね</b> (チャーリーとローラ 1)</p> <p>ローレン・チャイルド／作 木坂涼／訳 フレーベル館 2016年11月 1400円＋税</p>	<p>チャーリーは、食べ物の好き嫌いが激しい妹と留守番を頼まれます。夕食を食べさせるために、妹の嫌いなにんじんを「えだみかん」と別の名前で説明し、食べさせることに成功します。まめ、じゃがいもなども次々と面白いネーミングが繰り返され、コラージュを取り入れた絵の楽しさに加え、会話するように自然に流れる文体は、声に出して読みたい1冊です。</p>	野菜 偏食 兄妹

### 3 自然・科学

	<p><b>びっくりまつぼっくり</b> (幼児絵本ふしぎなたねシリーズ)</p> <p>多田多恵子／文 堀川理万子／絵 福音館書店 2010年9月 900円+税</p>	<p>公園でまつぼっくりを見つけた男の子は、眺めて遊んで、近くの手すりの上に並べて帰ります。雨の日に傍を通ると、まつぼっくりは水にぬれて小さくしぼんでいました。持って帰って一晩経つと今度は元の大きさに戻りました。まつぼっくりの変化への発見や驚きが子どもの目線で描かれています。巻末の「ピンにまつぼっくりを入れる手品」は実際にやってみるとびっくりするでしょう。</p>	<p>まつぼっくり 発見 実験</p>
	<p><b>まほうのコップ</b> (幼児絵本ふしぎなたねシリーズ)</p> <p>藤田千枝／原案 川島敏生／写真 長谷川摂子／文 福音館書店 2012年9月 900円+税</p>	<p>水が入っただけのコップ。けれどこれはまほうのコップ。後ろにいちごを置いて覗いてみるとつぶれて見えます。1本のフォークは2本に見えます。他にも物を置くとどうなるのでしょうか？ コップの形を変えてみたら？ 水による光の屈折を利用したおもしろ写真の数々が科学への好奇心を刺激します。楽しく読んだ後は試してみたいくなる写真絵本です。</p>	<p>実験 水 光</p>
	<p><b>うまれたよ! バッタ</b> (よみきかせ いきものしゃしんえほん)</p> <p>新開孝／写真 小杉みのり／構成・文 岩崎書店 2013年10月 2200円+税</p>	<p>卵からかえったショウリョウバッタの幼虫が、生まれてから成虫になるまでの様子をおさめた写真絵本です。脱皮をする、草を食べる、うんちをするなど、1つ1つのシーンがページいっぱいに広がっています。わかりやすい文章でその時々バッタの様子が説明されているので、バッタの生態について知ることができます。</p>	<p>バッタ 成長</p>
	<p><b>やさいのおなか</b> (幼児絵本シリーズ)</p> <p>きうちかつ／さく・え 福音館書店 1997年1月 1000円+税</p>	<p>白黒で描かれた野菜の断面のクローズアップ。ページをめくると、カラーでその野菜の全景が描かれています。れんこんやたけのこなどわかりやすいものから、さつまいもやにんじんなど難易度の高いものまで11個の野菜が出てきます。身近な野菜を切った時の形のおもしろさに気づくことができます。幼い子から小学生まで、クイズ形式で楽しめる絵本です。</p>	<p>野菜 クイズ</p>
	<p><b>しずくのぼうけん</b> (世界傑作絵本シリーズ)</p> <p>マリア・テルリコフスカ／さく ボフダン・ブテンコ／え 内田莉莎子／やく 福音館書店 1969年8月 900円+税</p>	<p>村のおばさんのバケツから飛び出した一滴の水が、長い冒険の旅に出ます。お日様に照らされて蒸発し雲になりますが、雨になって地面へ。寒い夜に氷になったしずくは、朝には溶けて川に流されます。気温や場所に変化する水の姿が、シンプルで親しみやすい絵で描かれています。私たちの生活に欠かせない水の不思議を感じることができ、好奇心が刺激されます。</p>	<p>水 環境</p>



	<p><b>みかんのひみつ</b> (しぜんにタッチ!)</p> <p>鈴木伸一／監修 岩間史朗／写真撮影 ひさかたチャイルド 2007年12月 1200円+税</p>	<p>実のしくみや実のなり方など、まるごと1冊みかんについてわかる写真絵本。皮の中には実があり、1房の実はたくさんの粒からできています。夏に小さな緑色の実だったみかんは、秋になるにつれてだんだん色が変わっていきます。白い筋やへたの秘密、さまざまなみかんの仲間についても紹介されています。 身近な食べ物に関心を持って、理解を深めていける1冊です。</p>	みかん
	<p><b>おちばのしたを のぞいてみたら...</b> (はっけん たんけん えほん 2)</p> <p>皆越ようせい／写真と文 ポプラ社 2000年8月 1200円+税</p>	<p>森や林の落ち葉の下には、何がいるのでしょうか。落ち葉を食べるミミズ、ミミズを食べるアリなど、降り積もった落ち葉の下には、さまざまな種類の生き物や細菌がいて、落ち葉を分解したり土にししたりしながら森や林を守っています。クローズアップされた写真をみながら、いのちのつながりや環境について考えるきっかけになります。</p>	落ち葉 昆虫 発見
	<p><b>ぞうのひめちゃん</b> (おおきなながく)</p> <p>椎名修／監修 内山晟／写真撮影 ひさかたチャイルド 2008年8月 1200円+税</p>	<p>生後半年の赤ちゃんゾウ、ひめちゃんの動物園での暮らしや成長が写真で紹介されています。鼻の長さや、顔の大きさが実物大で載っていて、迫力があります。ミルクを飲んだり、飼育係に甘えたりする人なつっこいひめちゃんの様子から、動物への関心が膨らみます。 写真が大きくて見やすいので、大人数の前で読む時にも向いています。</p>	ゾウ 飼育 動物園
	<p><b>ふゆめがっしょうだん</b> (かがくのとも絵本)</p> <p>富成忠夫／写真 茂木透／写真 長新太／文 福音館書店 1990年1月 900円+税</p>	<p>動物や小人のように見える顔。実は、冬を越すさまざまな木の芽を拡大して撮った写真です。木の種類によって、みんな違った顔をしています。「みんなは みんなはきのめだよ」と、テンポよく語りかけるような文章が添えられていて、もうすぐ春になる喜びが伝わってきます。冬の公園や雑木林で、いろんな顔を探してみてもいいですか。</p>	木 春 表情 詩
	<p><b>やさいはいきている</b> - そだててみよう やさいのきれはし- (しぜんにタッチ!)</p> <p>藤田智／監修 岩間史朗／写真撮影 ひさかたチャイルド 2007年2月 1200円+税</p>	<p>料理の際の野菜の切れ端を、水を入れたお皿に置いて成長する過程を観察する写真絵本です。切れ端の野菜でも適切な環境で育てると、やがて葉っぱや根っこができて、生きていることがわかります。特別な道具がなくても簡単にできる自然観察です。子どもと一緒に力強い野菜の生命力を感じてみませんか。</p>	野菜 観察



## 4 空想・ユーモア

 <p>かいじゅうたちのいるところ モーリス・センダック さく じんぐうてるお やく 富山房 1975年12月 1400円＋税</p>	<p>かいじゅうたちのいるところ</p> <p>モーリス・センダック／さく じんぐうてるお／やく 富山房 1975年12月 1400円＋税</p>	<p>ぬいぐるみを着て大暴れしたマックスは、お仕置きのため母に寝室に放り込まれます。するとどンドン木が生えて波が打ち寄せ、船に乗ったマックスはかいじゅうたちがいる島へ。かいじゅうたちを従わせて王様になりましたが、やがて寂しくなって母のところに帰ります。怒りや不満に対処する子どもの内面が描かれ、迫力あるかいじゅうたちの世界を、マックスの表情の変化とともに楽しめます。</p>	<p>冒険 怒り</p>
 <p>ぶたのたね 佐々木マキ 作・絵 絵本館 1989年10月 1200円＋税</p>	<p>ぶたのたね</p> <p>佐々木マキ／作・絵 絵本館 1989年10月 1200円＋税</p>	<p>走るのが遅い狼は、ぶたを捕まえたことがあります。きつね博士からぶたの実が成る不思議なたねをもらって育て、やがて沢山のぶたが成りました。ぞうのマラソン大会のせいでぶたはみんな落ちて逃げてしまいましたが、狼は「こんどこそ！」と思い、もう一度ぶたのたねを植えました。はっきりした輪郭の見やすい絵で、なんとしてでもぶたを食べたい狼の滑稽さや、失敗しても諦めない姿が描かれています。</p>	<p>ブタ オオカミ 失敗</p>
 <p>キャベツくん 長新太 文・絵 文研出版 1980年9月 1300円＋税</p>	<p>キャベツくん (みるみる絵本)</p> <p>長新太／文・絵 文研出版 1980年9月 1300円＋税</p>	<p>「キャベツ、おまえをたべる！」とブタヤマさんに言われたキャベツくんは、自分を食べるとキャベツになると伝えます。ヘビ、タヌキ、ゴリラとさまざまな生きものがキャベツになって空に浮かぶのを見てブタヤマさんはびっくり。「どうなる？」「こうなる！」という二人のやり取りがテンポよく繰り返され、二人で交互に声に出して読んでも楽しい絵本です。</p>	<p>変身 ブタ キャベツ</p>
 <p>ぼちぼちいこか マイク・セイラー 作・絵 ロバート・グロスマン 訳 いまえよしとも やく 偕成社 1980年7月 1200円＋税</p>	<p>ぼちぼちいこか</p> <p>マイク・セイラー／さく ロバート・グロスマン／え いまえよしとも／やく 偕成社 1980年7月 1200円＋税</p>	<p>カバくんは、将来なれそうな職業について考えます。消防士、パイロット、バレリーナにカウボーイ。いろいろ試してみたけれど、どれもうまくいきません。「どないしたらええのんやろ」と悩むカバくんですが、良い方法を思いつくまで一休み。見開きでオチがつく、関西弁で訳された絵本で、ついクスツと笑ってしまいます。めげないカバくんから、焦らずゆっくり考えていけばいいというメッセージが伝わります。</p>	<p>カバ 関西弁 仕事 失敗</p>
 <p>ALDO ジョン・バーニンガム 作・絵 たにかわしゅんたろう やく ほるぷ出版 1991年12月 1600円＋税</p>	<p>アルド・わたしだけのひみつのもだち</p> <p>ジョン・バーニンガム／さく たにかわしゅんたろう／やく ほるぷ出版 1991年12月 1600円＋税</p>	<p>私には私にしか見えないアルドという名前の特異な友達がいて、私がいじめにあった時や困った時は、いつでも側にいてくれます。アルドのことを忘れる日もあるけれど、本当に辛い時は来てくれることを私は知っています。アルドは、辛い、悲しい気持ちを救ってくれる、子どもの心が作り出した空想の友達です。時にはこんな友達も必要ではないでしょうか。</p>	<p>孤独 友達</p>

	<p><b>さかさま さかさま</b></p> <p>マリオ・ラモ／作 原光枝／訳／ 平凡社 2005年7月 1600円＋税</p>	<p>ハツカネズミのレミの世界は、頭が下で足が上、みんなと逆さまで。ある日丸い地球の下側に、きっと自分と同じようなネズミがいると思ったレミは、旅に出ます。出会えた、と思った途端空へ落っこちてコウノトリと衝突。目覚めた時にはひっくり返った新しい世界が広がっていました。レミ視点の不思議な絵を逆さにしてみると、他者から見た自分という異なる見方ができます。</p>	<p>孤独 友達 冒険 ネズミ</p>
	<p><b>まくらのせんになん そこのあなたの巻</b> (クローバーえほんシリーズ)</p> <p>かがくいひろし著 佼成出版社 2010年1月 1300円＋税</p>	<p>枕の仙人が布団のしきさん、かけさんを従えて散歩をしていると、象が地面の穴から鼻が抜けなくて困っています。次に、キリン、兎、タコも穴から抜けなくなっています。「どうしたものか」と穴を覗きこんだ仙人も頭がはまってしまい、「そこのあなた」に助けを求めます。「そこのあなた」とは、この本の読者のこと。書いてある通り本を逆さにして上の方を叩いてやれば、穴からスポンと抜ける読者参加型の絵本です。</p>	<p>参加型 枕・布団 協力</p>
	<p><b>タマゴ イスにのり</b> (チューリップえほんシリーズ)</p> <p>井上洋介／作・絵 鈴木出版 2012年7月 1200円＋税</p>	<p>ニワトリのお母さんが、イスに「よろしくね」とタマゴを託します。タマゴはイスに載せてもらって散歩にでかけ、犬とかけっこしたり、フクロウに優しく抱っこしてもらったりと、いろんな生き物との出会いを楽しみ、夜が近づいたのでお母さんの元に帰ります。 奇想天外なお話ですが、他者との出会いを楽しみ、安心する場所へ帰還する、子どもを外界へと誘う絵本です。</p>	<p>散歩 タマゴ イス</p>
	<p><b>エンソくん きしゃにのる</b> (こどものとも傑作集)</p> <p>スズキコージ／さく・え 福音館書店 1990年9月 900円＋税</p>	<p>エンソくんは、おじいさんの所に、初めてひとりで汽車に乗って遊びに行きます。緊張するエンソくんですが、途中の駅で、なんと羊の群れが乗り込んできます。羊の形のコロケが入った駅弁を食べるエンソくんの横で、羊たちも草を食べ始め、お腹がいっぱいになったみんなは、一斉に眠ります。ユニークで力強い絵が、エンソくんの冒険とマッチして子どもの想像力を掻き立ててくれます。</p>	<p>冒険 汽車</p>
	<p><b>よかったね ネットくん</b></p> <p>レミー・チャーリップ／さく やぎたよしこ／やく 偕成社 1969年8月 1400円＋税</p>	<p>ネットくんにパーティーの招待状が届きました。でも、大変！ パーティーは遠い田舎であるとのこと。でも、よかった！ 友達が飛行機を貸してくれました。でも、その飛行機が途中で爆発！この「大変！」と「よかった！」が次々と交互にやってきます。「大変！」のページは白黒で、「よかった！」のページはカラーで描かれています。悪いことがあっても、次にはいいことがある、希望に繋がる絵本です。</p>	<p>希望 災難</p>

## 5 希望・成長・葛藤（ノンフィクション）

	<p><b>耳の聞こえない メジャーリーガー ウィリアム・ホイ</b></p> <p>ナンシー・チャーニン／文 ジェズ・ツヤ／絵 斉藤洋 ／訳 光村教育図書 2016年10月 1400円＋税</p>	<p>ウィリアムは、ろう学校では野球選手にはなれなかったが、練習を毎日続け、働きだしてからプロ野球に入る。試合で審判の音が聞こえず三振し、周りから笑われ辛くなった彼は、審判に絵を描き、「ストライク」「セーフ」などのジェスチャーを提案し、受け入れられる。メジャーリーガーの伝記。</p>	<p>主題／ゆめ、障がい、野球</p>
	<p><b>さかなクンの一魚一会</b> -まいにち夢中な人生！-</p> <p>さかなクン／著 講談社 2016年7月 1300円＋税</p>	<p>さかなクンは小2の時、タコが好きになったことがきっかけで、週末は母親と一緒に水族館に通い、閉館時間まで観察し、絵を描いて過ごした。魚に夢中になりすぎて学校の勉強はできなかったが、そのおかげで小さい頃からの夢がかない、大学の先生となって魚を研究する現在につながる。</p>	<p>主題／ゆめ、自然、家族</p>
	<p><b>新津春子。 世界のおそうじマイスター！</b></p> <p>若月としこ／著 岩崎書店 2016年4月 1400円＋税</p>	<p>羽田空港で清掃のプロとして働く春子さんの半生を描く。中国残留日本人孤児の父を持つ春子さんは、中国ではいじめを受け、17歳で帰国した日本では中国に帰れと言われたことがある。どんな状況でも目標を決め努力し続ける春子さんが、仕事への誇り、使う道具や場所、人に心をこめて清掃することを伝える。</p>	<p>主題／希望、いじめ、仕事</p>
	<p><b>「どうせ無理」と 思っている君へ</b> -本当の自信の増やし方-</p> <p>植松努／著 PHP 研究所 2017年3月 1200円＋税</p>	<p>北海道で20人だけの町工場でロケットを作る著者が、自信と可能性を奪う言葉「どうせ無理」に負けないためのヒントを綴る。自身が小学生の時に先生や友だちから「お前なんか」と否定的なことを言われ続けたが、好きなことをやり通したことで打ち勝った経験を伝える。</p>	<p>主題／ゆめ、仕事、宇宙</p>
	<p><b>おっちゃん、 なんで外で寝なあかんの？</b> -こども夜回りと「ホームレス」の人たち-</p> <p>生田武志／著 下平けいすけ／絵 あかね書房 2012年4月 1200円＋税</p>	<p>「ホームレス」の人はどうして野宿をしなければならなかったのか。若者が「ホームレス」の人たちを襲う事件はなぜ起こるのか。子どもたちと「ホームレス」の人が理解しあえる出会いを作りたいという願いから生まれた「こども夜回り」や野宿をしている人の話を聞く活動を通して、偏見や差別をなくすためにできることを訴える。</p>	<p>主題／貧困</p>



## 6 希望・成長・葛藤（フィクション）

	<p><b>春くんのいる家</b></p> <p>岩瀬成子／作 坪谷令子／絵 文溪堂 2017年5月 1300円＋税</p>	<p>4年生の日向の両親が離婚し、母の実家で祖父母と暮らして1ヶ月経った頃、いとこの春くんが跡継ぎになるために養子としてやってくる。春くんの父は病死し、母は再婚している。家族としてのぎこちなさがあるが、捨て猫の空を育てることで少し距離が縮まっていく。</p>	<p>主題／離婚</p>
	<p><b>おばあちゃんとバスにのって</b></p> <p>マット・デ・ラ・ペーニャ／作 クリスチャン・ロビンソン／絵 石津ちひろ／訳／ 鈴木出版 2016年9月 1500円＋税</p>	<p>教会から外に出ると、雨が降っていた。ジェイとおばあちゃんはバスに乗って出かける。ジェイは雨やバスを不満に思っていたが、運転手のデニスさんは、手品をしてくれるし、ギターをひいて歌ってくれる人もいる。バスをおりると、おばあちゃんが虹をみつけてくれた。二人はボランティア食堂に着き、手伝いをする。</p>	<p>主題／貧困</p>
	<p><b>バンブルアーディ</b></p> <p>モーリス・センダック／作・絵 さくまゆみこ／訳 偕成社 2016年4月 2000円＋税</p>	<p>豚のバンブルアーディは、誕生日祝いをしてもらったことがなかった。8つの時、両親が亡くなり、おばさんに引き取られる。9つの誕生日、おばさんはお祝いの用意をしてくれるが、おばさんの留守中に友達とどんちゃん騒ぎをして台無しにしてしまう。</p>	<p>主題／虐待・ネグレクト</p>
	<p><b>丸天井の下の「ワーオ！」</b></p> <p>今井恭子／作 小倉マユコ／画 くもん出版 2015年7月 1300円＋税</p>	<p>小学6年のマホはディスレクシアで読み書きに苦労している。学年代表として工作が展示された丸天井のある博物館で、中学生の正樹に触発されて自分の工作作品にまつわる物語を語る。小説家という夢をあきらめかけていたマホだが、正樹から才能を自分でつぶすのはやめろと言われ、自分らしくがんばろうと思う。</p>	<p>主題／障がい（ディスレクシア）</p>
	<p><b>おかあさんどこいったの？</b></p> <p>レベッカ・コップ／文・絵 おーなり由子／訳 ポプラ社 2014年7月 1300円＋税</p>	<p>母親の死を理解できず、「ぼく」は母親を探し、帰りを待つ日々を送っている。残された父親と姉の家族3人で、さびしさを共有しながら対話を重ね、やがて母親とのすてきなできごとを思い出すことで天国から見守られていると感じるようになり、「ぼく」は少しずつ母親の死を受け入れていく。</p>	<p>主題／家族の死</p>

他にも、「希望・成長・葛藤」のテーマで、こんな本があります。

## 【ノンフィクション】

『マララ -教育のために立ち上がり、世界を変えた少女-』マララ・ユスフザイ／著 パトリシア・マコーミック／著 道傳愛子／訳 岩崎書店 2014年11月 1700円+税

主題／命、希望、ジェンダー

『メッシ ハンデをのりこえた小さなヒーロー』マイケル・パート／著 樋渡正人／訳 ポプラ社 2013年10月 1200円+税

主題／ゆめ、闘病、サッカー

『宇宙への夢、カいっばい!』若田光一／著 高橋うらら／著 PHP 研究所 2014年12月 1400円+税

主題／ゆめ、仕事、宇宙

『テンプル・グランディン自閉症と生きる』サイ・モンゴメリー／著 杉本詠美／訳 汐文社 2015年2月 1600円+税

主題／障がい、仕事、自然

## 【フィクション】

『マイ・ベスト・フレンド』ジャクリン・ウィルソン／作 ニック・シャラット／絵 小竹由美子／訳 童話館出版 2012年10月 1500円+税

主題／いじめ

『ケンガイにつ!』高森美由紀／作 加藤休ミ／絵 フレーベル館 2016年3月 1400円+税

主題／家族の死

『怪物はささやく』パトリック・ネス／著 シヴォーン・ダウド／原案 ジム・ケイ／イラスト 池田真紀子／訳 あすなる書房 2011年11月 1600円+税

主題／家族の死

『もういちど家族になる日まで』スザンヌ・ラフルーア／作 永瀬比奈／訳 徳間書店 2011年12月 1600円+税

主題／家族の死

『僕は上手にしゃべれない』椎野直弥／著 2017年2月 ポプラ社 1500円+税

主題／吃音

『世界を7で数えたら (SUPER!YA)』ホリー・ゴールドバーグ・スローン／作 三辺律子／訳 小学館 2016年8月 1500円+税

主題／障がい

『マルの背中』岩瀬成子／著 酒井駒子／絵 講談社 2016年9月 1300円+税

主題／貧困

『15歳、ぬけがら』栗沢まり／著 講談社 2017年6月 1300円+税

主題／貧困

『スピニー通りの秘密の絵』ローラ・マークス・フィッツジェラルド／著 千葉茂樹／訳 あすなる書房 2016年11月 1500円+税

主題／貧困

『坂の上の図書館』池田ゆみる／作 羽尻利門／絵 さ・え・ら書房 2016年7月 1300円+税

主題／貧困

『明日のひこうき雲』八東澄子／著 ポプラ社 2017年4月 1400円+税

主題／貧困

『メキシコへ わたしをさがして』パム・ムニョス・ライアン／作 神戸万知／訳 偕成社 2017年4月 1500円+税

主題／貧困

『紅のトキの空』ジル・ルイス／作 さくまゆみこ／訳 評論社 2016年12月 1600円+税

主題／貧困

『空飛ぶリスとひねくれ屋のフローラ』ケイト・ディカミロ／作 K・G・キャンベル／絵 斎藤倫子／訳 徳間書店 2016年9月 1600円+税

主題／離婚

『ぼくらは鉄道に乗って』三輪裕子／作 佐藤真紀子／絵 小峰書店 2016年12月 1400円+税

主題／離婚

『パンとバラ -ローザとジェイクの物語-』キャサリン・パターソン／作 岡本浜江／訳 偕成社 2012年8月 定価1728円

主題／虐待



『小やぎのかんむり』市川朔久子／著 講談社 2016年4月 1400円＋税

主題／虐待

『スマート -キーラン・ウッズの事件簿-』キム・スレイター／作 武富博子／訳 評論社 2016年10月 1400円＋税

主題／虐待

『ぼくが弟にしたこと』岩瀬成子／作 長谷川集平／絵 理論社 2015年11月 1300円＋税

主題／虐待

『わたしがいどんだ戦い 1939年』キンバリー・B・ブラッドリー／作 大作道子／訳 評論社 2017年8月 1600円＋税

主題／虐待

『カーネーション』いとうみく／作 酒井駒子／画 くもん出版 2017年5月 1400円＋税

主題／精神的虐待



保護者向けのブックレット  
「子どもと一緒に本を読もう」

子どもと本の話をしませんか？

好きな遊びやテレビの話をするように、時には子どもと本の話をしてみるのはいかがでしょうか。

好きな本や話題になっている本の話をしたり、子どもと同じ本を読んだり、読み合うことで、子どもとのコミュニケーションを深めたり、これまで気がつかなかった子どもの興味や関心を知ることができるかもしれません。

時には、家庭で一緒に本の話をする時間をつくりませんか？



支援者向けブックレット  
「子どもの居場所での読書活動支援ブックレット」

様々な理由により、読書活動から遠ざかっている子どもが、自発的に本を読みたいと思うためのステップとなるような読書活動支援の取り組み例を紹介する支援者向けブックレットです。

放課後子ども教室、放課後児童クラブ、子ども食堂等の子どもの居場所づくりに関わる方や幼稚園、保育所、認定こども園の職員の方々にこのブックレットを活用いただき、子どもの居場所での活動に、読書活動を取り入れていただければと願います。





©2014 大阪府もずやん

発行 大阪府教育委員会（2018年9月発行）  
お問合せ先 市町村教育室 地域教育振興課  
電話 06-6944-9372（直通）FAX 06-6944-6902  
ホームページ <http://www.pref.osaka.lg.jp/chikikyoiku/shokai.html>  
（文部科学省「図書館資源を活用した困難地域等における読書・学習機会提供事業」委託事業）